慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	章華社版, 「世界文化史」(近代篇)
Sub Title	
Author	近山, 金次(Chikayama, Kinji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.2 (1936. 7) ,p.188(356)- 188(356)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19360700-0188

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

章華社版「世界文化史」（近代篇）

緊迫した現下の世界事情に鑑み、近代世界文化の正確公平な知識を與へんとする目的から編輯された本書は著名な七名の近世史家によつて各部門が擔當されてゐる。

文藝復興時代の文化（大類伸）に於ては先づ「文藝復興」の概念を說明して人文主義に及び、當時の社會的政治的變遷を述べてルネサンスの文藝美術を物語る。第二篇宗教改革（山中謙二）では宗教改革を中心として近世初期の最も變化に富む時代相が概說され、次の民族國家勃興時代（齋藤清太郎）ではイギリス、フランス、ロシア、プロシアの各國史とアメリカ合衆國の獨立が記述され、更にフランス革命とナポレオン及び自由主義動搖時代（間崎万里）では近世史上の最大事件たるフランス革命と波亂に富むナポレオン時代が說明され、七月革命、二月革命を經て第二帝政の沒落までを記す。第五篇民族統一時代（時野谷常三郎）に入るとローマン主義、民族主義の發生からイタリア、ドイツ兩國の統一を述べ、アメリカ南北戰爭とバルカン問題を說明してゐる。帝國主義時代（佐藤堅司）は第十九世紀後半に於けるヨーロッパ各國が產業革命の影響による經濟發達の必然的結果として世界政策を採用するの餘儀なきに至つた事情に筆を起してヨーロッパ列强の植民地經營と日米を中心とする極東問題に及び大戰前の世界狀態を說明する。最後の世界大戰と現代（齋藤茂）に於ては大戰とそれ以後を敍述して最近の支那問題に筆を結んでゐる。全部で四二五頁である。

最近、伊エ問題の展開はドイツの進展と共にヨーロッパを攪亂し、更に極東の日本を中心とする支那問題と結ばれて今日に於ける國際關係の紛糾は相當多難な前途を豫測させるものがあると言はねばならぬ。此時にあたり極めて有意義な本書の刊行を見たことは我國讀書界の喜びとする所であらう。（定價金參圓）。（近山金次）

ナポレオンの性格（ホランド・ローズ著　砂川一平譯）

邦文のナポレオン評傳も少くないが、興味本位の英雄傳風のものが多く、深い學的研究に立脚し、正鵠を得た判斷のうかゞはれる書は求むるに困難である。その意味で、砂川氏譯『ナポレオンの性格』は、ひとりナポレオンの研究者にとつてのみならず、評傳の一つの形式を示したものとして有益な文獻である。著者ホランド・ローズ博士は The Revolutionay and Napoleonic Era の快著を始めとして我が國にもよく知られるナポレオン時代史海戰史の專門家である。卷頭の原著者序文にもある如く、本書は多年の研究の成果であり、通俗的ではあるがそれだけ普及性のある著者の自信作であらう。

全篇八部に分れてゐるが、その內容を概觀すると、第一講『人間』は全篇の序論であり、コルシカに於けるナポレオンの準備時代として、その家系、敎養（特に史學に專心したること）、叛逆性、復讐性等のコルシカ氣質が如何に彼に受け繼がれ、その後年の活